

モンゴルで新事業開始

シクロケムがαCDで

ラクダミルクを世界に

シクロケム(神戸市中央区)は、8月を以てモンゴルのウランバートル市に現地法人を設立し、新事業を開始する。現地で搾乳したラクダミルクをαオリゴ糖(αOG)で包接し、新素材を製造するとともに世界に向けて販売する。近年、世界中で健康課題にされている糖尿病に対し、新素材を用いて対応することを目指す。

モンゴルの新会社は「シクロケムモンゴル」の社名を予定している。この新会社では、新素材「ラクダミルクαオリゴ糖」を製造・販売することに加え、現地に搾乳して、フレッシュαオリゴ糖パウダーとして世界中に流通させる計画を立てている。

現地に搾乳して、豊かな自然環境を誇るモンゴルで大量に収穫することができ、これまでの研究で健康に役立つこと

した研究論文が次々に発表されている。ラクダミルク中のペプチドが、DPP-4阻害活性を備えるという。DPP-4は、膵臓ホルモンのインクレチンを不活化する酵素で、この数年タイプ2糖尿病で注目されているGLP-1の働きを阻害する。このDPP-4の働きを抑えることはGLP-1の活性を高めることと同義と見え、ラクダミルクがタイプ2だけでなく、糖尿病対策に役立つ可能性が複数の論文で示唆されている。

一方、ラクダミルクは搾乳後速やかに冷蔵庫で保存しても、すぐに劣化「日持ちしない」という課題を持つ。これに対してαCDで包接することによって劣化を防いで安定性を高める狙いがある。また、αCD自体もGLP-1の活性を向上させる働きを備える。このためラクダミルクαオリゴ糖パウダーは、DPP-4阻害とGLP-1活性の2つのメカニズムで糖尿病病作用を示す。

現在、シクロケムには東北医科薬科大学で博士号を取得したモンゴル人研究員が在籍しており、これまでにラクダミルクペプチドのDPP-4阻害の研究を行ってきた。この研究員とバトフー教授が加わり、モンゴルの新会社を設立する。寺尾社長は出資者として新会社の設立に立ち合い、シクロケムの技術を用いて、世界中の健康維持・増進に寄与することを志している。

が立派に育っている。この利益シクロケムの寺尾啓社長は「数年前からモンゴル国立大学の客員教授に就任していた。同大学で寺尾社長は、バトフー教授と共同研究を行い、機能的成分のβ-グルテン酸を含む重麻仁油とバトフー教授のαオリゴ糖パウダーを開発した。

ラクダミルクでは近年、抗糖尿病作用を追究